

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	保健推進員等活動事業	会計	一般会計	事業No.	245	施策順No.	31-008
		事業種別	政策・その他	予算科目	4-1-2-15-1		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり			課等名	保健課		
施策	31 心と体の健康づくり			事業期間	開始	S41	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	まちづくり委員会健康福祉委員会等					A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかできていない Dほとんど達成できていない						
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)						19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		まちづくり委員会 健康福祉委員会等を構成する人数 人						497	653	640	640	641	
	意図	①健康づくり推進のための学習を行い、それを実践する ②地域の健康課題の解決にむけて活動が展開する											
対象をどう変えるか	対象を	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)					19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
		保健課が実施する研修会、学習会の参加率%					43.5	40.7	41.7	50	42	50	B
		人					216	266人	267	320人	269	320人	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	研修会や学習会に参加し、そこで学んだことを、まちづくり委員会の皆さんが地域に広めることにより、市民が健康に関心を持つことに結びついた。												

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	まちづくり委員会健康部会等は、地域での健康学習会や講演会の開催、各種検診の勧奨、生活習慣病予防を中心とする健康づくりの推進役としての活動や、高齢者のいきいきリハビリ等の協力をしている。そのなかで地域の健康問題を共に考え課題を明らかにして、市民が健康増進を目指して積極的な取り組みができるよう働きかける。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1. 保健・健康に関する研修会を開催 (1) 全市研修会 1回 (2) 代表者会 2回 2. 健康いいた21の推進 3. がん検診、特定健診受診率を向上するため、地域で健康学習会や講演会の開催 (1) 各地区での健康学習会・講演会の開催 (2) 身近な地域での健康学習会開催への協力 4. いきいきリハビリの協力	1 特定健診受診率 2 地域での学習会等の開催回数	1 33.3% (H23.4月末現在) 2 146回
23年度実施計画	1. 保健・健康に関する研修会を開催 (1) 全市研修会 1回 (2) 代表者会 2回 2. 健康いいた21の推進 3. がん検診、特定健診受診率を向上するため、地域で健康学習会や講演会の開催 (1) 各地区での健康学習会・講演会の開催 (2) 身近な地域での健康学習会開催への協力 4. いきいきリハビリの協力	1 特定健診受診率 2 地域での学習会等の開催回数	

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)			特定財源内訳、補足事項
		22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	
	国庫支出金				
	県支出金				
	起債				
	その他				
	一般財源	3,335	3,155	3,748	
	計 (A)	3,335	3,155	3,748	
	正規職員所要時間		1,600		
	臨時職員等所要時間				
	人件費計 (B)		5,722		
	トータルコスト A+B		8,877		

4 事業に対する市民や議会の意見

保健推進活動が市民に浸透しておらず、活動内容を知らない市民が多いとの市民の意見がある。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民が心身ともに健康を保つ	施策の成果指標又はムトス指標	心身ともに健康であると感じている市民の割合 65歳未満の死亡における生活習慣病の割合(H19)61.3%
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	保健推進委員会がまちづくり委員会の一組織となったため、市からの依頼で実施する事業が減り、各地区の実情にあった活動をおこなうようになった。		
	後期に向けた課題	各地区の委員会が主体的に健康についての活動を行えることを目指す。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	市でおこなう研修等で健康について学び、それを地域に広めてもらうことで地区の健康増進に努めてきた。		
	後期に向けた課題	各地区でそれぞれの健康課題を見つけ、改善に取り組めるような組織にする。保健師はそれを支援する。		
コストを削減するためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	飯田市の研修を、飯伊地区の研修会と合同とした。		
	後期に向けた課題	各地区で活動内容を考え、適正人数であるか、まちづくり委員会とともに考える。今後も飯伊地区の研修と合同で実施することで、コスト削減しより効果的な研修会としたい。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	受益者負担は無し。		
	後期に向けた課題	受益者負担は無し。交付金でよいか精査が必要であり、委員が地域で活動しやすい体制づくりを考える。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてきましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	①主体はまちづくり委員会健康福祉委員等で、委員自らが地区の健康課題を考え、保健師とともに地域で健康教室を開催、地域住民が健康に関心を持ち、健康づくりに取り組めるような意識付けを行ってきた。 ②委員研修や代表者会を開催し、健康づくり事業の概要や方針について説明し、健康課題をともに考えられる資料を提供した。		
	後期に向けた課題	保健師は、2年間の任期の中で、地区の健康課題について適切な判断ができるような資料をつくり、地域の実情に合った活動が展開できるように支援を行う。		
全体を通じて	4年間の振り返り	保健推進委員会がまちづくりの一組織となったことに伴い、各地区委員会で実情にあった活動をおこなうようになった。		
	後期に向けた課題	地域の健康課題を知り、各地区の実態に沿った活動がおこなえるよう支援をする。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--